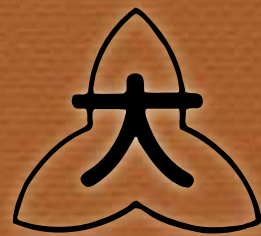




宇都宮短期大学



宇都宮短期大学



50周年記念誌





Greeting 学長あいさつ

全人教育で個性を発揮し、地域社会への貢献をめざして



宇都宮短期大学は、須賀学園により1967年に創立され、本年50周年を迎えました。

これまで、温かいご支援とご協力を賜りました多くの皆さまに、心より感謝を申し上げます。

開学の嚆矢は、1964年に須賀高等学校（現在の宇都宮短期大学附属高等学校）に音楽科を設置し、その一期卒業生を迎えるべく、祖父の須賀友正校長（初代学長）が地域で音楽を学べるハイレベルな高等教育機関を構想したことでした。当時、文部省に勤務していた父 須賀淳理事長（第2代学長）の協力も得て、この緑豊かな長坂の丘にキャンパスを構えました。

半世紀の歳月を経て、音楽科は世界の第一線で活躍している演奏家はもちろん、中学校の音楽教諭をはじめ、音楽教室講師、音楽関連企業と幅広い職業分野で音楽文化や情操教育の向上に貢献する3,700名の卒業生を輩出してまいりました。現在、クラシックの各ジャンルに加えて電子オルガン、音楽療法士、邦楽の12の専攻コースを備え、来年度には、吹奏楽・アンサンブルコースが新設されます。

2001年には、学園創立百周年を記念し、高齢社会のニーズに応じて福祉分野の人材育成を目的に、人間福祉学科（社会福祉専攻、介護福祉専攻）を設置しました。巣立った1,200名の卒業生は、福祉施設や病院、自治体や社会福祉協議会で中堅職員として地域福祉を支えています。さらに2011年、人間福祉学科幼児福祉



宇都宮短期大学・宇都宮共和大学
学長 須賀 英之

専攻（2003年設置）は宇都宮共和大学子ども生活学部に発展し、既に700名の卒業生が保育や子育て支援の現場で活躍しています。宇都宮共和大学シティライフ学部（1999年設置、宇都宮シティキャンパス）の学生との交流も活発で、長坂キャンパスは、緑と人のぬくもりに包まれ、一層の彩りを増し活気づいています。

長坂キャンパスの3つの学部学科で養成する人材は、ともに高度な対人サービスの専門職です。人間が人間として持てる力を最大限発揮して人の心に感動を呼び起こす、学生はそのような職業人を目指して、ともに学びあっています。そのために、全人教育（人間形成の教育）という建学の精神に基づいて、教職員と学生が固い信頼関係のもと切磋琢磨し個性を発揮できるよう、東京のマンモス大学にはない、顔と顔が見える少人数制の教育を実践しています。

全人教育の理念に則った本学の使命は、その教育研究成果を地域に還元していくことにあります。創立50周年の節目にあたり心あらたにして、これからも社会で有為な愛される人材の輩出に邁進してまいります。須賀学園の教育研究の総合力を発揮して、地域の活性化や教育文化福祉の振興に尽力することをお誓い申し上げます。

皆さまには、今後とも本学へのご指導とご鞭撻をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

宇都宮短期大学創立者 須賀友正先生が遺されたもの

須賀友正先生は、須賀学園が誕生した翌年の1901年のお生まれです。現在の東京工業大学を卒業後、日本のトップ商社であった高田商会に勤務され、ドイツ赴任の直前に関東大震災に遭遇しました。それを機に、県立宇都宮工業学校に招聘され宇都宮に戻られました。

1934年須賀学園の創立者須賀栄子先生の急逝により、33歳の若さで第2代校長に就任し、1945年の宇都宮大空襲で校舎が全焼後も苦難を乗り越えて、学校を立派に復興されました。戦後の激動の時代に確固たる教育理念のもと、栃木県私立中学高等学校連合会長、栃木県公安委員長など多くの公職も歴任し、その功績は藍綬褒章や勲三等瑞宝章の叙勲で称えられ、1982年に80歳で逝去されたのち、勲三等旭日中綬章も授与されました。

友正先生は無類の音楽好きで、宇工勤務時代には創立5周年にあたり校歌を作曲し、式典のピアノ伴奏も自ら担当されました。奥さまの華子先生のお箏との二重奏は、



仲睦まじいお姿と共に今でも学園 須賀友正先生遺愛の1900年製ピアノに伝わり、須賀学園教育会館の校史室には友正先生遺愛の1900年製アップライトピアノが、若き弾き手を待っています。現在、長坂キャンパスと附属中学・高校には100台のピアノが備わり、双方の大ホールには世界の名器スタインウェイとベーゼンドルファのフルコンが各種の演奏会や学生生徒の発表に活用されています。



須賀友正記念ホール



創立者 須賀友正先生

一方、友正校長はスポーツにも並々ならぬ関心を持たれて、終戦直後の1946年にはアメリカから紹介されたばかりのソフトボールをクラブ活動にいち早くとり入れました。試合にはチームと共に全国各地に行き、ある時はボールを拾い、宿舍や食事の手配まで全力で応援をされました。現理事長 須賀淳先生との二人三脚の熱意で、関東大会をはじめ、高校総体、国民体育大会に全国優勝をして、ついに1958年には三大会制覇の栄誉（トリプルクラウン賞）を獲得しました。今年、竣工した硬式野球場にも、目を細めていらっしゃるでしょう。



1958年全国優勝して帰校



2017年竣工の硬式野球場



友正校長先生と華子先生



いつでも笑顔で挨拶する
友正校長先生

友正先生の文武両道の人間教育を貫いた精神は、昭和から平成の激動の時代を映し、須賀学園の発展と長坂キャンパス創設への歴史を語っています。（宇都宮短期大学 副学長・教授 中川英子）

Index

page1～2 学長あいさつ
創立者 須賀友正先生が遺されたもの

page3～4 理事長インタビュー

page5～8 写真で振り返る長坂キャンパスの歩み

50th Anniversary

page9～10 長坂キャンパスの「過去・現在・未来！」
教員／卒業生からのメッセージ

page11～12 活躍する卒業生

page13～14 長坂キャンパス50年

Interview Extra

理事長インタビュー

ひかり輝く全人教育 ～「一人は一校を代表する」を生活目標に～

文部省のご勤務から1968年に須賀学園に戻られて以来、現在もお元気に勤務されている須賀 淳先生(須賀学園理事長)に、長坂キャンパスの温故知新をお伺いしました。

1964年、須賀友正校長先生が高校に音楽科を設置されました。全国的にも先駆的な試みだったことでしょう。

全国でも約10校しかなかった高校の音楽科を、本校で初めて男女共学で発足させたことは、まさに画期的なことでした。当時、文部省では高校教育の多様化を推奨していて、初等中等教育局の初等教育課長の私は、父と音楽科設置を構想しました。友正校長は自らピアノを弾き作曲も得意で、音楽への憧れは人一倍でした。明治33年に栃木県内最初の私立の女子教育機関として創立された本校ですから、芸術の香り高い音楽科を加えることには、私も大賛成でした。高校総体、国体、全関東という三大会制覇を達成したソフトボール部の快挙に次いで、1962年には発足4年目のオーケストラ部がNHK全国器楽コンクールで第2位を獲得したことも後ろ盾にありました。先生も生徒もよりレベルの高い演奏指導を求め、それに応えるべく第一線で活躍の音楽実技の先生方を招聘し、音楽科が誕生したのです。

それより先、長坂にグラウンド(現 長坂キャンパス)を開設し、宇都宮短大の創設を準備されていた当時の様子は。

高校から4kmの丘陵地で、高い丘の緑の美しさや見晴らしの良さに魅かれて、将来、音楽や幼児教育を専門とする高等教育機関を設置しようと、10年ほど前から準備をしていました。グラウンドを開設した1965年、秋の大運動会を長坂キャンパスで開催したことを、今でも鮮明に覚えています。高校には音楽科のレッスン室と練習室を備えた特別校舎(3号館)を新築し、短大創設についても物心ともに着々と準備を進め、審査が厳しい文部省の設置認可のために度々上京する父と、二人三脚で努力しました。長坂キャンパスには、当時と変わらない豊かな自然環境が維持され、現在「こどもの森」やキャンプ実習にも活用されていることは、とても嬉しいことです。

1967年の3月に高校音楽科の1期生卒業に合わせて、宇都宮短期大学音楽科が開学し、須賀友正先生が初代学長に就任されました。



須賀学園
理事長 須賀 淳

昭和24年東京大学を卒業。文部省に勤務。文部大臣秘書官、初等中等教育局教科書課長、初等教育課長などを歴任し、昭和43年須賀学園に戻る。栃木県私立中学高等学校連合会長、栃木県公安委員長などをつとめる。

3年前に発足した高校音楽科は、各種コンクールや芸術祭で表彰された中学生に対する熱心な募集活動も功を奏して、優秀な生徒が集まりました。その実績から、高校卒業生を受け容れるための宇短大音楽科の創設に弾みがついたのです。

高校音楽科の卒業生は約半数が宇短大へ入進学し、半数は東京藝大はじめ有名音楽大学へ進みました。この比率は半世紀を経ても、変わっていません。現在は、宇短大から海外留学や東京の4年制難関音大への編入学者も増えています。高校・短大の音楽科卒業生が、全国はもとより世界へと演奏活動や教育活動の場を広げてきたことは感慨無量です。

友正校長は、「教科の学習はもとより、文化面、スポーツ面へと私の思いは連なっていく」と話し、「強く、美しく、朗らかに励もう」と学生生徒に目標を掲げていました。

淳先生が、副校長として1968年夏に文部省から学園に戻られ、9月には学校名を須賀高等学校から宇都宮短期大学附属高等学校に改称されました。

校名変更は、須賀学園に当時数少ない高等教育機関である短大を設置したことを世間に示すとともに、名実ともに新しい時代のニーズを切り開く高等学校として脱皮を図ろうと考え、決断しました。学園にとって大きなエポックとなりました。文部省海外教育事情視察団の団長として欧米各国をめぐり、特に米国の高校において多様な教育が行なわれていることに注目した経験が大きかったと思います。

音楽科に次いで1970年には、栃木県に先鞭を付けたいという思いで、高校に調理科を新設しました。厚生省へ50人定員で申請し募集したところ、150人に上る受験生があったことはうれしい悲鳴でした。



文部省から須賀学園に戻られた昭和40年代の授業風景

1985年に、長坂に須賀友正記念ホール(2号館)を増築。第2代学長の淳先生はアコーディオン、電子オルガンやオーディオ機器を駆使して、音楽に親しまれておられます。音楽ホールの建設に関しても、相当に研究されたことでしょう。

1982年に亡くなった宇短大創立者の須賀友正学長を顕彰して建てられたこのホールは、日本一のクラシック環境を目指して、NHKの技術研究所に音響設計を依頼しました。

国内外から訪れる有名演奏家がこの宇短大のホールを絶賛するたびに、NHK技術研究所に日参した労苦が報われる思いです。同じくNKH技術研究所に音響設計を依頼して、1988年には附属高校にも須賀栄子記念講堂を新築しました。世界の名器であるスタインウェイピアノとベーゼンドルファーピアノ、国産のヤマハとカワイのコンサート用フルコンをそれぞれのホールに備えました。各メーカーによる世界最高峰のピアノの音質の特徴が、私の耳にも良く分かりました。

同時期に栃木県交響楽団、その後に栃木県オペラ協会の会長にも就任されていますね。

学園は地域の音楽団体との関わりも深く、1970年に発足した栃木県交響楽団の会長を初代会長の父から引き継ぎ、また1999年には県内の2つのオペラ団体を一体化した栃木県オペラ協会の設立にあたり、会長としてその発展に努めました。

学園創立100周年を迎えるにあたり、1999年に那須大学(現・宇都宮共和大学)を創設されました。その狙いは。

私は21世紀の激しい社会変化に対応できる、個性ある創造的・国際的な人材養成が必要と考えていました。折しも、那須が国会で首都機能移転のトップ候補地に決定され、これを受けて栃木県や那須塩原市等から学園に大学設置の要請があり、全国初の都市経済学部を有する那須大学を開学しました。

その後、国において首都機能移転が見送られたことから、学園では那須キャンパスは維持しつつも、2006年に大学本部を宇都宮市中心市街地(宇都宮シティキャンパス)に移転し、須賀学園創立時の校名を復活して宇都宮共和大学と改称しました。

この新しいシティライフ学部は、都市の生活・経済・まちづくりを学ぶ先駆的な学部として、評価を得ていることは嬉しいことです。

2001年に宇短大人間福祉学科が発足し、音楽と福祉を総合的に学べる短大に発展しました。

高齢社会が急速に進み、福祉の専門職を養成することが国家の政策となりました。附属高校生徒の福祉ボランティア活動を見て、この場にこそ「全人教育」を必要とすることを痛感し、人を知ること重点を置き、人間福祉学科(社会福祉・介護福祉専攻)を設置しました。短大に音楽と福祉が揃ったことで、「豊かな心」「豊かな暮らし」に向けた創立当時の構想が実を結びました。

2004年に英之先生が第3代学長に就任されました。幼児福祉専攻や音楽療法士専攻から宇都宮共和大学子ども生活学部まで、革新の年月でした。

長男の英之が学園に戻り、4年後に学長職をバトンタッチしました。英之は経済が専門ですが、学生時代から色々な楽器に親しみ、スポーツにも熱心でした。嫁も国立大学の教授で大学を身近に見ていたこともあり、スムーズにバトンタッチできました。

2003年に少子化に向けて宇短大人間福祉学科に幼児福祉専攻を、また2005年に福祉との融合を考え音楽科に音楽療法士専攻を設置しました。幼児福祉専攻は、音楽科の強力なバックアップもあり実績を伸ばして、2011年に宇都宮共和大学子ども生活学部に発展しました。福祉や保育の現場で、卒業生がすでに中堅として活躍していることは心強いことです。

その後、宇短大音楽科には邦楽専攻を加え、2018年には吹奏楽・アンサンブル専攻が新設されます。アンサンブルホールの新設やこどもの森の整備も進み、隣接地に須賀学園第4グラウンド(硬式野球場ほか)も完成しました。長坂キャンパスの展望をお聞かせください。

母の須賀華子が三味線や長唄などの邦楽をたしなみ、私は幼い頃からその音色を聴いて育ったので、邦楽専攻の設置は念願でした。一方、附属高校吹奏楽部は、毎年コンクールで好成績をおさめていますので、吹奏楽指導者を育成する吹奏楽・アンサンブル専攻にも大きな期待を寄せています。

長坂キャンパスの開設以来半世紀を経て、私が文部省在職時からの構想であった人間社会にとってかけがえのない「音楽」「福祉」「保育」にかかわる教育の道筋が揃いました。共通する教えは、学園創立者の須賀栄子先生が教育の根源に置いた一人ひとりの個性・能力・特性を最大限に伸ばす「全人教育(人間形成の教育)」に他なりません。

これからも伝統と先進を両輪に、教職員と学生がお互いに信頼し合い、あたたかな校風のもと優れた教育研究を進め、卒業生には輝かしい人生を送ってほしいと心から願っています。

インタビュー後記

学生生徒の生活目標として掲げられている「一人は一校を代表する」は、私にとっても宝物の言葉です。

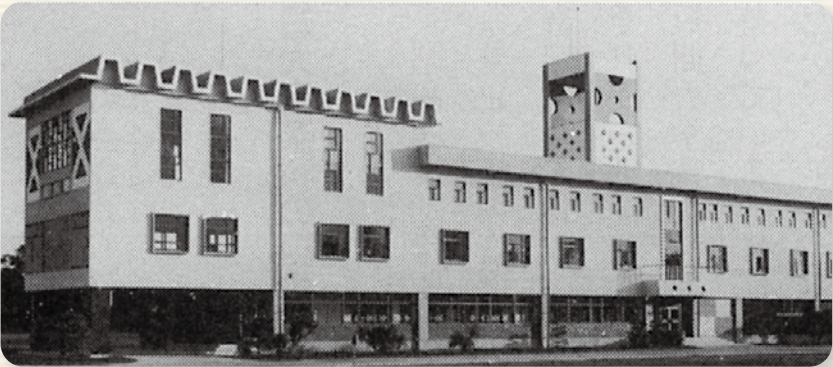
この目標を学園全体で邁進してきた半世紀こそ、建学の精神「全人教育」の実践であり、個性豊かな学生生徒を育んできた歴史であることを、このインタビューで実感しました。フランクにお話しくださった須賀淳先生に、心から御礼申し上げます。



インタビューー
宇都宮短期大学 音楽科 学科長・教授 直井 文子
足利市出身。宇都宮短期大学附属高等学校音楽科第3期生。桐朋学園大学ピアノ科を卒業と同時に本学へ着任し、これまでに多くの演奏家や音楽指導者を社会に送り出している。



開学式で式辞を述べる須賀友正学長（1967年）



宇都宮短期大学（音楽科）開学当時の1号館校舎



開学当時の図書館



夏休み前の音楽科第4期生（1972年）



須賀友正記念ホール・2号館増築（1985年）



創立10周年記念演奏会（1977年）



創立20周年記念式典（1987年）



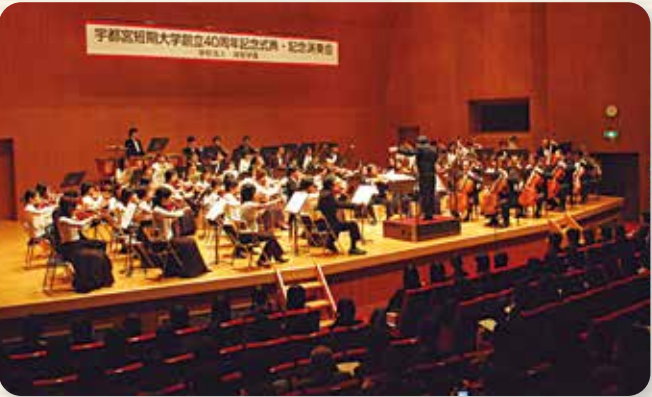
創立20周年記念演奏会（1987年）



須賀学園創立100周年記念演奏会（2000年）



中丸 三千繪さんを迎えての特別定期演奏会（2003年）



創立40周年記念演奏会（2007年）



須賀学園創立110周年記念演奏会（2010年）



合唱授業 (1977年)



合奏授業 (1982年)



音楽科両毛地区演奏会・足利市 (2016年)



音楽科 卒業演奏会 (2016年)



一日旅行 (1982年)



学園生活 (1988年)



人間福祉学科 福祉演習 (2012年)



人間福祉学科 キャンプ実習 (2012年)



人間福祉学科 スキー実習 (2014年)



コンスタンティン・ガーネフ特別講義 (1994年)



タマーシュ・ヴァルガ特別演奏会 (2017年)



子ども生活学部 保育演習 (2016年)



子ども生活学部 幼稚園実習 (2016年)



ヨーロッパ海外研修旅行・ウィーン (2001年)



オープンキャンパス・コンサート (2017年)



彩音祭 オープニング (2016年)



彩音祭 ソーラン節ダンス (2016年)



レクリエーション・フェスティバル (2016年)



第1期生として音楽科とともに50年



宇都宮短期大学名誉教授
音楽科第1期生
星野 和夫

私が音楽を本格的に学ぼうとしていた中学3年生のとき(1964年)、前身の須賀高等学校に音楽科ができたことは、誠に幸運でした。校長の須賀友正先生は音楽に造詣が深く、当時、音楽部の活動は活発で、それが音楽科の新設へと結びついたのです。

当初、多数の先生を東京から招聘しており、私も日本を代表する先生方の教えを受けることができたことは大きな喜びでした。オーケストラ活動も盛んで、合宿を繰り返して練習を積み、学生・生徒と教員が一体となって、盛んに県内の学校巡回や近県まで演奏旅行を行いました。

文部省から学園に戻られた須賀淳先生の時代(1968年～)に、高校・短大とも大きく発展しました。校名も現在の宇都宮短大附属高等学校となり、学科・コースが多様化し、電子オルガンや音楽療法士などの専攻コースが短大

に加わりました。淳先生は学校運営だけでなく、私も参加した栃木県交響楽団や栃木県オペラ協会の設立にも尽力され、会長として栃木県全体の音楽文化を盛り上げていただきました。

私自身は音楽の視野を広げるために他大学で美学を修め、本学で教職について音楽専門科目を教えることとなりました。ヴァイオリンに限らず、ソルフェージュや音楽専門科目、そして合唱や合奏まで担当できたことは、音楽の教師冥利に尽きると感謝しています。

最後に、これまで半世紀にわたる導きに感謝し、今後とも学園が未来永劫へと発展されんことを切に願っています。



第3期生として草創期の思い出



宇都宮短期大学附属高等学校
講師
音楽科第3期生
根本 英孝

私が宇都宮短期大学に入学した第3期生は、1学年50名のうち男子が6名でした。キャンパスには2学年あわせても100名弱の学生数で上下関係もなく、毎日仲良く過ごしました。入学直後、須賀淳理事長先生が40歳代で、日曜日に私たち学生と一緒にグラウンドに植樹をされたことが、とても印象に残っています。

学生生活ではクラス全員がとても仲良く、2年生の時に初めて短大祭を開催しました。オーケストラも全パートそろえて、1期生の星野和夫先輩の指揮で、映画音楽などを演奏したのも良い思い出です。

年末にオーケストラの定期演奏会を企画して、その練習のために、猪苗代湖畔の「翁島荘」で行われた7泊8日の合宿では、朝から夜まで音楽づけの日々でした。もっとも、休憩時間には猪苗代湖でボートに乗ったりして、楽し

い青春時代を過ごしました。こうして、オーケストラの練習に明け暮れていた2年間でした。

卒業後は研究科で学んだ後、附属高校教諭として赴任しました。その後、高校、短大とも大きく様変わりし、学園全体の規模も大きくなり、現在に至っていることは感無量です。現在に至るまで、授業の担当に加えて母校のオーケストラ、吹奏楽、コンクールの指導に携わり、学生・生徒とともに喜びや苦しみを共に味わってきました。

創立当時の思いがみずみずしく受け継がれていることを嬉しく思い、今後ともさらに宇都宮短期大学が発展していくことを心から願っています。



卒業生からのメッセージ



足利市立坂西北小学校教頭
音楽科第16期生
新井 和子

卒業して早や36年。思い起こせば情熱あふれる先生方と個性的な仲間に恵まれ、充実した素晴らしい日々でした。熱のこもったピアノのレッスン。緊張の連続だった聴音の授業。学生全員で作上げた「宇短大讃歌」の美しいハーモニー。

社会人としての心構えや常識を織り交ぜながらの専門性豊かな講義は、教職に就いてからそのありがたみを実感しました。卒業後は足利市の中学校に音楽教員として赴任し、2013年には、箏と合唱の指導が認められ「とちぎ教育賞」をいただきました。

この春から小学校の教頭として勤務しておりますが、私の教員人生は、宇短大での2年間に支えられています。



音楽科と子ども生活学部の深くて豊かな関係



宇都宮共和大学
子ども生活学部特任教授
牧野カッコ

緑に恵まれた長坂の高台に宇都宮短期大学が創立されたのが1967年4月。戦前、軍都で知られていた宇都宮の街に、音楽芸術の文化を広げるという貴重な役割を果たしてきました。

同じ長坂キャンパスにある宇都宮共和大学子ども生活学部は、2003年に発足した宇短大人間福祉学科の幼児福祉専攻を発展させて、7年前にスタートしました。音楽科のキャッチフレーズ「ゆたかな心は音楽とともに」は、子どもの保育・教育にもピッタリの言葉です。

子ども生活学部のカリキュラムにはピアノの授業がたくさんあって学生たちは、卒業までに幼稚園や保育園で必要なピアノ演奏の技能を身に付けていきます。音符が満足に読めなかった学生が立派に伴奏ができるようになっていく姿は、感動的ですね。

方の熱心なご指導のおかげと、感謝に堪えません。

「子育て支援研究センター」が主催する保育者のための研修会では、音楽療法の紹介や実践をいただいています。TINY活動(障がいのある子と家族の遊びのつどい)での音楽遊びやコンサート、親子遊びの会でのお琴に触れる活動等、音楽科の先生方や学生と子ども生活学部の深くて豊かな関係は数えきれないほどです。子ども生活学部は音楽教育に強い学部として、その特徴を発揮しています。

今後とも同じキャンパスで協力し合いながら、地元、ゆたかな教育と文化の活動を広めてゆきたいと願っています。



社会と卒業生から頼りにされる福祉人材を



宇都宮短期大学
副学長・教授
中川 英子

宇都宮短期大学に人間福祉学科が新設されたのは、音楽科がスタートしてから35年目の2001年4月。以来17年間、人間福祉学科は、音楽科とともに、宇都宮短期大学の教育研究の両輪を担ってきました。今日では、多くの卒業生が福祉施設の中堅として活躍し、地域の福祉社会を頼もしく支えています。また、教員の研究室には、日ごろ訪れる卒業生の姿が絶えません。

このように人間福祉学科は、実社会に巣立ってから親しみをもって相談できる大学として、また、福祉施設からはリーダーを養成する高等教育機関として、地域からの厚い信頼をいただいています。

一方、本学がもてる教育資源(教育・研究成果や施設・設備)を活用して、「宇都宮短期大学地域福祉開発センター」では講演会や公開講座を開催し、「音楽と福

祉」から地域の文化・福祉の向上に貢献しています。

音楽科と人間福祉学科を有する本学ならではの講座(宇都宮市民大学講座「音楽と福祉」など)で、その真価を発揮しています。

さらに本学は、地域の福祉職や住民の方々ばかりでなく、リカレント教育としても幅広く活用され、卒業生の交流の場ともなっています。

現在、人間福祉学科には、社会福祉士専攻(社会福祉士コース・医療事務コース)と介護福祉専攻がありますが、教職員一同、さらなる地域福祉向上のために、力を合わせて一層の発展を目指してまいります。



昭和音楽大学 声楽専攻4年生
音楽科第48期生
荒川 菜捺

宇都宮短期大学音楽科を卒業後、昭和音楽大学に編入学し、現在は特待生として学んでいます。

宇短大在学中は、様々な演奏会に出演させていただきました。数多くの舞台を通して地域の方々との関係を深められたことで、現在も県内で演奏活動を続けながら、自信を持って学校生活を送る事ができています。また、学友会役員をつとめ、質の高い自主的な学友組織を目指して活動していました。コミュニケーション能力や人をまとめ導く力を身に付けられたので、人間としても成長できたように感じています。

ぜひ後輩の皆さんには、宇短大でしか学べないことをしっかりと身に付けて、活かす事ができるよう、精一杯、がんばって欲しいと思っています。





活躍する卒業生

宇都宮短期大学附属高等学校 音楽科



元鹿沼高校・栃木女子高校校長
大和 俊晴

高校時代は、朝早くから夜遅くまで、オーケストラの練習に明け暮れました。見知らぬ土地での演奏会を成功させるため、チケットのセールスも経験し、人とのふれあいと共に良き社会勉強になりました。また、多くの先生方からお声かけや励ましをいただき、支えられました。卒業後も、校章が胸についている気持で音楽教育や演奏活動を続けています。



オペラ演出家
東京藝術大学音楽学部
オペラ専攻 非常勤講師
直井 研二

附属高校で学んだ音楽の基礎は勿論のこと、学園生活で身に付いた「本気でやろう」「仲間と創ろう」という教えは、東京藝大に進学後、またオペラ演出家としての半世紀において、私の人生の原点になっています。これまで経験した舞台の総てを、感謝の心とともに、彩音祭演奏会やキャリア講座等を通して後輩へ伝えて参ります。



声楽家
宇都宮短期大学客員教授
城守 香

附属高校で学んだ3年間はかけがえない貴重な時間であり、毎日が新鮮な発見と喜びに満ち溢れていました。音楽家になるための心得をお教え導き戴きましたことは、私の根幹となっています。心より感謝申し上げ、さらに母校に貢献できることを願っています。



NHK交響楽団
ファゴット奏者
菅原 恵子

オーケストラ プレイヤーを夢見て入学し、最も柔軟性が有る高校時代にレベルの高いソルフェージュとリトミックの教育を受けられた事が、今日までプロとして活動している原点です。これからも、多くの後輩の夢を叶える場所として、益々の発展を祈念いたします。



仙台フィルハーモニー管弦楽団
トロンボーン首席奏者
菊池 公佑

高校3年間、それは私の青春そのものであり、今の私の根本です。大好きな音楽を好きだけ学べる学校が大好きでした。全ての出会いに心から感謝しています。仙台フィルを拠点として、音楽活動していますが、母校の名に恥じぬように今後とも努力して参ります。



声楽家
劇団「四季」元団員
沼尾 みゆき

今思えば、ここがスタート地点でした。大好きな友達、素晴らしい先生方、充実した設備・環境で、技術と大切な事をたくさん学びました。本当にありがとうございました。在校生は大いに学び、大いに遊び、たくさんの事を吸収して、夢を叶えて下さい。世界に羽ばたく時を楽しみにしています。



千葉フィルハーモニー管弦楽団
ファゴット奏者
柿沼 麻美

卒業後、東京藝大・大学院を修了し、オーケストラプレーヤーとして3年が経とうとしています。生徒一人ひとりの個性を伸ばしてくださる環境で過ごした3年間は、音楽家としての土台として、かけがえのない時間です。出逢った仲間に感謝し、目標をしっかりと持って歩んでいきたいと思います。



ピアニスト
宇都宮短期大学特別講師
西尾 真実

「もっと自分の才能を磨きなさい」、恩師の言葉は今でも鮮明に覚えています。モスクワやイタリア留学を終えて、現在、ピアニストおよび指導者として音楽を探究する日々です。完成のない芸術への愛情と熱意を持って、日本と世界を結ぶ音楽活動を通じて、芸術文化の発展に貢献したいと願っています。

宇都宮短期大学 音楽科



声楽 ヴォイストレーナー
合唱指揮者
船山 洋子

宇都宮短期大学附属高校、宇都宮短期大学に通い、卒業して早や50年が過ぎました。在学中、素晴らしい師との出会いがあり、東京の音楽事務所に所属して更に研鑽を積みました。これからも学生時代の学びを糧に、ソリストや合唱指導者として活動を続けて参ります。



フリーアナウンサー
気象予報士
福嶋 真理子

豊かな表現力を学んだ事が何よりの思い出です。卒業後は栃木放送に15年間アナウンサーとして勤めた後フリーになり、現在は、とちぎテレビでキャスターをしています。気象予報士としても活動しています。個性を大切に、母校に恩返しができるよう、これからも頑張っていきたいと思います。



グラーツ国立芸術大学
学士課程ピアノ科在学
川口 真由

様々な校内外のコンサートに携わる機会を頂き、多くのことを学びました。現在は、その経験を生かし、オーストリア国立グラーツ芸術大学にて、世界各国から集まった仲間と共に切磋琢磨しながら、充実した時間を過ごしています。オーストリアと日本の架け橋になれるよう日々精進して参ります。



合同会社はいこんちよ代表社員
小林 敏志

卒業後、郷里の長野県で老人保健施設や特別養護老人ホームで約10年間、介護職として経験を積みました。現在は、鹿沼市で小規模デイサービス「宅老所はいこんちよ」を運営、同窓の妻とともに宇短大で学んだ理想の介護を目指して頑張っています。

宇都宮共和大学 子ども生活学部



HEART MARKET
(福田屋宇都宮店内)
小室 詩織

大学4年間は、たくさんの友人に恵まれ、毎日楽しい学生生活を送ることが出来ました。私は、今でもその友人たちに感謝の気持ちでいっぱいです。また、青春を捧げてきたダンスサークルでの活動は、私にとって何ものにも代え難く、私の一生の宝物となっています。



電子オルガン奏者
宇都宮短期大学 特別講師
倉沢 大樹

学生時代には、大学祭やソロコンサートでの演奏など、多くの機会をいただきました。この経験は現在の私の音楽活動の礎となっています。卒業生としての誇りを胸に、多くの方々に音楽の魅力を伝えてゆける奏者でありたいと願っています。



宇都宮大学大学院在学
宇都宮短期大学附属高校
非常勤講師
小堺 香菜子

母校で教鞭を執る側ら、宇都宮大学大学院で音楽教育を研究しています。ピアノ五重奏やピアノコンチェルトの経験をさせていただいたのが、一番の思い出です。これらの経験で得たものや学んできたことを生かし、音楽の素晴らしさを伝えていける道に進みたいと思っています。

宇都宮短期大学 人間福祉学科



同窓会会長
中川 紘子

一番の思い出は学友会活動です。学友会会長として先生方のご指導のもと、仲間と過ごしたキャンパスライフは、特別な時間でした。卒業後は、大学での学びを生かし老人福祉施設の相談員として勤務し、人と関わることの難しさや喜びを学びました。卒業生のネットワークの充実にも頑張っています。



さくら認定こども園
さくら幼稚園 園長
永田 文子

自分よりも年の若い学生たちと同じキャンパスで学ばせていただいたあの頃。幼児教育の世界で自分なりの得意分野を見つけようと、もがきつつ、いつも先生方の温かいまなざしに励まされていたことを思い出し、感謝の気持ちでいっぱいです。母校のこども森での園児たちの活動は、私にとって更なる学びの場となっています。



宇都宮大学教育学部
附属幼稚園教諭
田野邊 涼

同じ目標を持った仲間が大勢いました。様々な分野の専門の先生方からきめ細やかな御指導を受け、実践を通して保育をより深く学んだことは忘れません。また、一緒に笑い励ましあって頑張った仲間、何でも相談できる心の距離の近い先生方に恵まれて、夢を叶えることができ感謝しています。



長坂キャンパス50年

西暦	年号	月	
1900年	明治 33年	11月	創立者須賀栄子により宇都宮市西塙田町に須賀学園(共和裁縫教習所)を創立
1901年	34年	7月	校名を共和裁縫女學校と改称
1904年	37年	10月	宇都宮市日野町に移転
1910年	43年	10月	宇都宮市松が峰2丁目に(現須賀学園研修所)に移転
1924年	大正 13年	3月	校名を宇都宮須賀女學校と改称
1932年	昭和 7年	4月	校名を宇都宮女子高等職業學校と改称
1934年	9年	10月	創立者須賀栄子校長逝去。須賀友正校長に就任
1945年	20年	7月	宇都宮大空襲により全校舎焼失
1946年	21年	3月	宇都宮市睦町2丁目(元陸軍野砲兵連隊跡・現睦町キャンパス)に移転
		4月	校名を須賀高等女學校と改称
1948年	23年	3月	学制改革により財団法人須賀学園に組織変更
		4月	校名を宇都宮須賀高等学校と改称
1951年	26年	1月	学校法人須賀学園に組織変更
1964年	39年	4月	高等学校に音楽科を設置
1965年	40年	10月	宇都宮市下荒針町にグラウンド(現長坂キャンパス)を開設
1967年	42年	4月	宇都宮短期大学(音楽科)を長坂キャンパスに創設。須賀友正学長に就任
		4月	宇都宮短期大学開学式を挙行
1968年	43年	7月	須賀淳副校長、文部省から本学園に戻る
		9月	高校の校名を宇都宮短期大学附属高等学校と改称
1982年	57年	9月	須賀友正理事長・学長逝去。須賀淳理事長・学長に就任
1983年	58年	4月	宇都宮短期大学附属中学校を創設(中高一貫教育)
1984年	59年	10月	福祉厚生棟(現4号館)を増築
1985年	60年	9月	須賀友正記念ホール(2号館)を増築
1987年	62年	4月	宇都宮短期大学音楽科に電子オルガン専攻コースを設置
1999年	平成 11年	4月	宇都宮短期大学音楽科にピアノ応用専攻コースを設置
			那須大学(都市経済学部)を那須キャンパスに創設
			須賀淳学長に就任



創立者 須賀栄子



昭和初期(現須賀学園研修所)



戦後復興した高校 睦町キャンパス



宇都宮短期大学開学 長坂キャンパス (1号館)



宇都宮共和大学 那須キャンパス



西暦	年号	月	
2000年	平成 12年	10月	須賀英之副校長、日本興業銀行(現みずほ銀行)から本学園に戻る
		11月	須賀学園創立100周年記念式典を挙行
2001年	13年	4月	宇都宮短期大学に人間福祉学科(社会福祉・介護福祉専攻)を設置
		4月	3号館(福祉実習室・図書館・学生ホール等)を増築
	15年	4月	宇都宮短期大学人間福祉学科に幼児福祉専攻を設置
2004年	16年	4月	須賀英之宇都宮短期大学学長に就任
		10月	須賀学園教育会館を開設
2005年	17年	4月	宇都宮短期大学音楽科に音楽療法士専攻コースを設置
	18年	4月	那須大学都市経済学部を宇都宮共和大学シティライフ学部と改称
			宇都宮シティキャンパスを開設
2006年		10月	多目的アリーナを増築
2011年	23年	4月	宇都宮短期大学人間福祉学科幼児福祉専攻を
			宇都宮共和大学子ども生活学部子ども生活学科に改組
			5号館(保育実習室・大講義室等)を増築
2016年	28年	4月	長坂キャンパスにこどもの森を整備
		4月	宇都宮短期大学音楽科に邦楽専攻コースを設置
		9月	1号館にアンサンブルホールを開設
2017年	29年	7月	隣接地に須賀学園第4グラウンド(硬式野球場等)を開設
		11月	宇都宮短期大学創立50周年記念式典を挙行
2018年	30年	4月	宇都宮短期大学音楽科に吹奏楽・アンサンブル専攻コースを設置



宇都宮共和大学 宇都宮シティキャンパス



多目的アリーナ



3号館福祉実習室



1号館アンサンブルホール



吹奏楽・アンサンブル専攻コース



5号館